

ナラ枯れ被害危険区域の予測

1 はじめに

平成21年、宮城県で初のナラ枯れ被害が確認され、秋田県でも広い範囲で被害拡大が確認されたため、岩手県への被害発生の危険性が高まった。

被害を早期に発見し適切に駆除していくためには、被害拡大の危険性の高い地域を予測し、その範囲を重点的に調査する必要がある。

当センターでは、被害警戒調査を効率的に進めるための基礎資料として、被害拡大の危険域を予測した「ナラ枯れ被害危険区域図」を作成し関係機関に配布したので、その概要を報告する。

2 予測の方法

危険要素①

【被害地点から30km圏内】

隣県の平成21年の被害情報地点から30km圏内を危険区域として抽出。

危険要素②

【標高300～500mの広葉樹林】

①の圏内で初期被害発生の可能性が高い標高帯300～500mのうち、民有・国有林（ミズナラ・コナラの大径木分布の可能性が高い）6齢級以上の広葉樹林を抽出。

危険要素③

【道路、高圧線周辺】

伐開地に隣接する森林に被害発生の危険性が高いことから、道路と高圧線を参考データとして抽出。

【危険要素①+危険要素②】

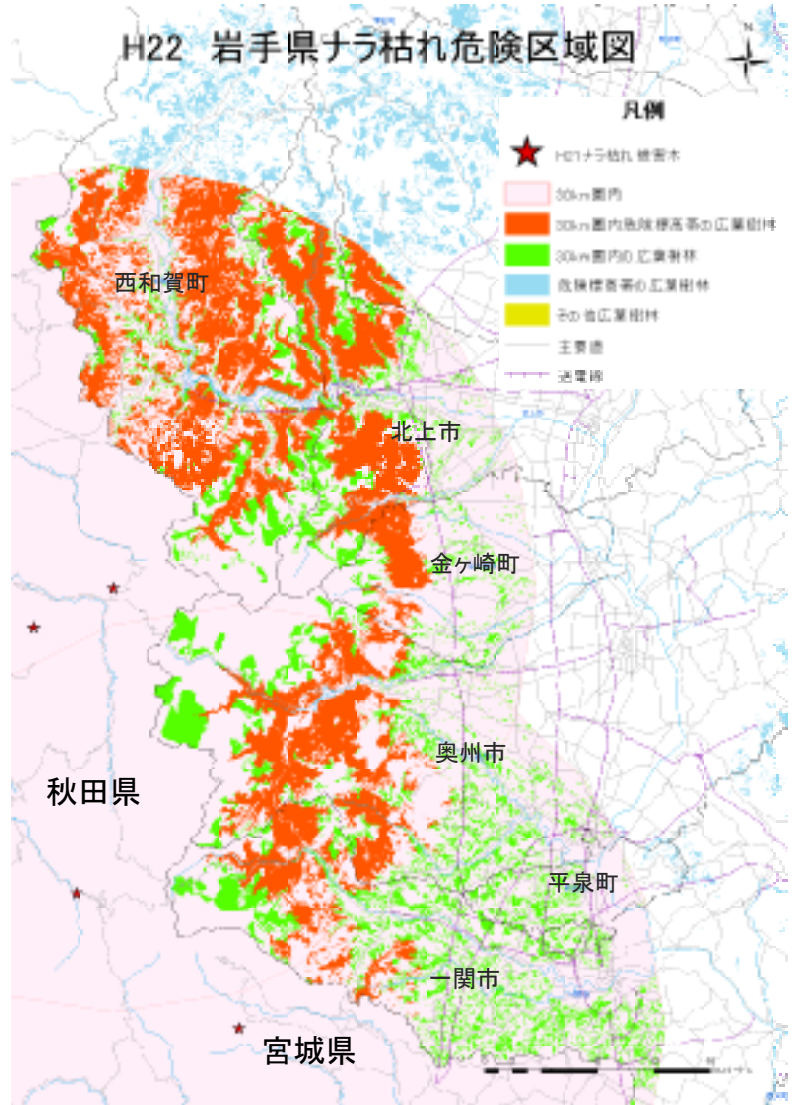
危険度高（右図 オレンジの区域）

【危険要素①内の広葉樹林】

危険度中（右図 緑色の区域）

【上記以外の広葉樹林】

危険度低（右図 水色の区域）



3 予測結果の活用

関係機関の被害対策の基礎資料として活用。

調査重点区域を抽出することにより、警戒調査の効率化・精度の向上を図る。

4 おわりに

平成22年以降は、危険区域等が変動していく可能性があり、今後、新たな被害情報を確認した都度更新していく予定である。

なお、関係機関には、関連する地理データとともに、閲覧・データ編集用にQuantumGIS（オープンソースGISソフト）を配布し、関係機関相互の効率的な情報共有を図っている。

使用データ・ソフト

- (1) データ
岩手県森林計画資料、林野庁業務資料、国土地理院数値地図25000（空間データ基盤・地図画像）・50mメッシュ標高
- (2) ソフト
QuantumGIS 1.5 Tethys、ArcInfo9.3.1

参考資料

- ・森林総合研究所関西支所（2007）ナラ枯れの被害をどう減らすか
- ・京都府林業試験場（2009）ナラ枯れの被害をどう防ぐのか

（担当者 研究部主任専門研究員 小澤 洋一）

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11

岩手県林業技術センター

ホームページアドレス http://www.pref.iwate.jp/*hp1017

TEL019-697-1536

fax 019-697-1410